

Title	新著紹介: 大石裕、吉岡至、永井良和、柳澤伸司著 『情報化と地域社会』 福村出版、1996年12月
Sub Title	大石裕他著 『情報化と地域社会』
Author	大石, 裕(Oishi, Yutaka)
Publisher	三田社会学会
Publication year	1997
Jtitle	三田社会学 (Mita journal of sociology). No.2 (1997.) ,p.91-
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11358103-19970000-0091

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新著紹介：大石裕、吉岡至、永井良和、柳澤伸司著

『情報化と地域社会』福村出版、1996年12月

大石 裕

私はかつて「地域情報化」という書を出版したことがある。そこでは、欧米と日本における情報社会論を概観し、情報社会が脱産業社会というよりも産業社会の枠内にとどまる社会であることを主張した。そして、そうした観点から地域情報化政策・構想について批判的検討を試みた。この作業は、情報社会論批判であると同時に、戦後日本社会論の意味合いを持っていた。その後、この研究テーマからしばらく離れていたところ、「社会と情報のライブラリ」の1冊として「情報化と地域社会」の企画がもちこまれた。私は、日本社会の近代化と情報化という、やや広範な課題に取り組むことを考えていたこともあり、既存の研究とは異なる角度から情報化の進展が地域社会に及ぼすインパクトについて1冊の本を書こうと思い至った。そこで、情報ネットワーク論、大衆文化論、ジャーナリズム論を専攻している研究者に声をかけてみた。こうして、この本が完成した。

この書では、まず「1.情報化と地域社会を諸概念」の検討が行われている。この章では、既存の理論が再考されるとともに、情報・コミュニケーション・社会の相互関連図が試論的に提示されている。次いで「2.情報ネットワークと地域社会」では、ネットワークという用語・概念にこだわりながら、やはり情報化と地域社会の関連が考察されている。これらの理論的考察をうけて、以下の3つの章では近代日本社会の分析が試みられている。

「3.日本社会の近代化と情報化：国家・地域間関係を中心に」は、分析編の中では総論的位置を占めている。また、地域情報化構想・政策の再考も行われている。「4.都市空間とメディア」では、大衆文化論の観点からこれまでの地域情報化論ではほとんど試みられなかった分析が行われている。「5.地域メディアとジャーナリズム」では、新聞と放送という二つのメディアが近代日本の地域社会の中で、あるいは国家・地域間関係の中でどのような役割を果たしてきたかという問題関心から検討が行われている。

以上見てきたように、本書は近代日本社会にこだわりながら、また既存の研究成果を批判的に検討しながら、「情報化と地域社会」の問題に接近した論文を5本収めている。情報社会論を越える試みという評価がもし下されるならば、本書の企画の意図は十分に達せられたといって良いだろう。

(本体価格2,300円)

(おおいし ゆたか 慶應義塾大学法学部)